

【4月9日協議会用の参考資料提供の提案】

前回の3月協議会の冒頭(会議録3p)に「アンケート結果の公表」について発言しましたがその件に関しては次回にする(会議録55p)こととなりました。発言主旨と理由を以下に記載しますが、これらを話し合う時に3月市議会の答弁内容が必要になると思われます。

協議会の時間内に市のHPから市議会VTRにアクセスすれば答弁の確認は出来ますがその際にも、各自の手元に答弁内容があった方が良いと思いますので、わたしがVTRから書き起こした会議記録ですが、参考資料として配付していただきますようご検討のほど、よろしくお願いいたします。

(※ はじめの1～3pのみで良いと思われませんが、全文添付いたします)

【森口の発言主旨】

2月協議会での行ったアンケートの結果については、まだ取り扱いが決定されていないが、公表して欲しい。

【理由概略】

3月市議会で田口部長が、「この協議会で積極的に意見を述べているのは、5、6名で偏っている、そのほかの人の意見は私ども(行政)に入ってきていない」と答弁をされましたがこのアンケートこそが発言をされていない方の意見です。現在、辛抱強くこの協議会に出席されている方々は、こういった場での発言は得意な方も苦手な方いると思いますが、皆さんがそれぞれ、この場で繰り広げられる質疑に対して、これまでの行政の回答や対応をみてきての判断が、アンケート結果です。

その回答結果として、建設に反対、住民の理解は得られていないなどが、ほとんどであったにも関わらず、行政はそれら協議会出席者の声を真摯に受け止めておりません。協議会の状況を正しく内外に公表する一環としてアンケート結果も公表してください。

4月7日提出 森口恵美子

床鍋義博議員一般質問

2月29日に床鍋市議の一般質問のVTRからの文書おこしです。

敬称略・・・田口：田口環境部長、松本：松本ごみ対策課長、床鍋：床鍋議員

()内の数字はVTRの時間、例(1:33:28)＝1時間33分28秒

ごみ行政について

42 : 33

床鍋：ごみ行政についてです。毎回同じ質問をさせていただいている。

3市共同資源物処理施設整備地域協議会、以下協議会、協議会で現在住民の同意は得られているのか。前回の答弁では一部の反対はあるものの協議会全体としては理解が得られていると言っておられました。

わたしはその時にも言いましたがこの協議会の傍聴をずっと通してみても、この答弁とは真逆の印象を持っています。再度同じ答弁をされるのか、これについて伺います。（43 : 05）

田口：議員からお話がありましたとおり、前回平成27年第4回定例会の一般質問におきましても同様の質問を頂いておりましたその質問に対しまして私から協議会の参加者におきましては未だ建設自体に反対されている状況には変わりない状況である。

また、しかしながらですね、3市共同資源物処理施設の建設において地域住民の皆様が一番心配されております環境対策であると認識しております。

この環境対策においては勉強会をはじめ施設見学会の実施、環境影響調査の状況、さらには施設における環境対策の予定等を丁寧に説明していることからこの点につきましては理解が進んでいると考えておりますと答弁をさせていただいております。その後ですね、本年1月の連絡協議会におきましてあたかもほんの一部の住民が反対しているかの内容であるのかとか、また、一部という数字的根拠があるのかというようなご意見が出ておりますことから、すこしお時間を頂まして丁寧に説明をさせていただきたいと

思います。（44 : 25）

まず地域連絡協議会に参加出来る代表団体といたしましては建設予定地から半径800mの東大和市内の自治会、マンション管理組合などの代表者および専任者ということになっております。

（44 : 45）

この地域には自治会、マンション管理組合が約44団体ほどございますが、建設には反対をしない行政に任せるといようなことから協議会に参加されてない団体もございます。（45 : 02）

現在、約20団体がこの協議会に参加されておりますが、このような施設におきましてはすべての方から理解を得ることは大変難しいと考えております。また、参加されている団体の方々におきましては施設建設に反対の意見や環境への不安をお持ちの方が多いと、考えております。このような中ではありますが参加されている団体の一部からからは近くに施設が建設されることに賛成ではないけれど建設するのであれば良い施設を建設して欲しいと言ったご意見も出ているところでございます。

また、会議の議事録、全文録を小平村山大和衛生組合のホームページで掲載をさせていただいておりますので、こちらをご覧くださいとおわかりになるかと思いますが、積極的にご意見を述べられている方が6名から7名ぐらいということで偏っている状況であると思っております。

この方々がですね、施設建設に反対されている状況であることは私ども充分認識はしてございますがこの方々以外の方々からの意見があまり私どもの耳に入ってきていない、意見が述べられていないと言う状況であると言うことでございます。(46:30)

床鍋：今、偏っているという意見ああったんですけど、それはおかしいかなと思うんですけど、で、反対しているから偏っているというのはおかしいじゃないですか、で、意見をだしてないからその意見は届いてないから、それはおそらく賛成なんだと聞こえてしまいますよ。
意見を言ってないんだから意見ない訳じゃないですか。

(47:00) だから、それをあたかも賛成の ようにとらえるってのはおかしい話であって今の発言に関しては、あたかも、前回と同じように一部が反対してるっていう風にまたとられますよ。実際に44団体があって、それらの中にも、市がやることだから建設には賛成するという人もいるって言いましたけど全員 ではないじゃないですか。今の言い方だとその44団体で参加していないところに関してはそういう人もいるから賛成のほうなんだって取られかねないので物事を正確に言うためには、私が先ほどいった質問は協議会において、今、周辺住民の同意が得られている状態ですかっていうことを聞いた訳ですよ。

それに対する答えを言って欲しいので、その44団体はの話は聞いてないわけですよ。(47:48)
そのあたりのことを、今現在、同意は得られているのかいないのかをお答えください。

田口：わたしが6名、7名に偏っているというのはこの協議会の中に参加されてる中におきましても、意見を積極的に述べられている方は6、7名でこれは議事録のほうをお読みいただければわかりいただけだと思います、その方々の意見が積極的に出ていると事実としてお答えさせていただいた訳であります。

また、他の方々の意見がその会議の中で発言がされていないということも事実だという風に認識しております。

(48:30) またですね、先ほどもご答弁させていただきましたが、協議会の中は参加されている団体によっては、施設建設に反対の意見や環境の不安へのえーお持ちの方が多い、要するに反対されている方が多いとご答弁させていただいたと言うことでございます。

床鍋：前回2月の13日ですかね、の協議会においてですね、これまでに何度と会合を重ねてきて特にこの1月に関しては3回開催されてます。でー参加住民にこう説明を丁寧に行っているのかっていうと実はそうではなくて結局、行政が最初にこう決めたスケジュール通りに進めるために行っているのではないかなとそういう風にうつってしまいます。(49:34) で、その2月13日に議長が今現在はどのような状況かっていうことでアンケートを取りました。

で、その中でやはり数字は言いませんけれど圧倒的に住民の理解を得ていない。

で、4団体の進め方についても充分じゃない、で地域住民の理解は得られているかも、ほとんど得られ

ていないというようなアンケート結果でした。もちろん、あの部長はその場にいられたのでご存じかと思いますが。そういった中で今後、住民の合意に関して、じゃあ、どうやって行くのか、それをお知らせください。

(50 : 25)

田口 : 今、議員のほうから合意という話がございましたが、合意得るということは私どもお話しはしてございませんし理解を得る努力はしていくと私ども考えております。なかなか合意となると合意文書を結べるとかそういったこととなるとなかなか難しいのかなって思っております。

あの当然現在も月1回程度お話、一月においてはそれ以上と言うことで会議等は開催させていただいておりますけれども、引き続き地域住民の皆様方に対しましては丁寧にこういった協議会を活用しながら理解を得る努力はしていく、また、当然、建設にむけてということでございますけれども、これは、建設中においても、仮に建設が終わった後、運用が始まった後におきましてもですね、地域住民の方々とこういった協議会になるかどうかはまだ確定はしてございませんけれども、そういったところでお互いに理解を深めていく必要はあるという風には考えております。(51 : 44)

床鍋 : 合意は、合意でなく理解だと。じゃあ、今度わたしも聞き方を変えますけれども、あの参加している住民の方の理解が深まらない理由はこれなんですかね。

これ、わたしは傍聴していると毎回、参加住民の方から質問があつてそれに対してその場で答えられないことがあつて、で持ち越して次の協議会で、そのことが話し合われるのかなと思つたら、次のスケジュールの通りまた説明がはじまつて前回持ち越し質問事項に関して答えられないということが非常に多い。

そういうことを繰り返しているので結局、理解を得る努力はしてるって言うふうに言ってますけれども結局のところ結果的にはその努力がみえてきてない。(52 : 42)

だからそういうふうにかう、たとえば前回質問されたことに関して答えをきっちり持ってくれば、そのものは解決するじゃないですか。で同じ質問を何回も何回もかう住民の方はされています、でこれはそのことに対する答えが、合理的な答えがしてないからですよ。

協議会の最初の時に確か合理的な理由、データとか、そういったものを含めて理解できるものであれば賛成しますよと言つた参加住民の方もいらっしゃいました、その方は今、反対に回っていますけれども、そういったことをきっちりやっつけていけば理解って進んで行くんじゃないかなって思うんですがいかがでしょうか。

田口 : ま、今、議員からお話がありましたとおり、質問に明確に回答が出来ていない、と言うところにつきましては数字的なことにつきましても規模の問題ですとかそういったところの中で、今回3市共同資源物処理施設の実施計画案の中でも基本構想から一歩進んだ形の中で環境対策も含め、そういったところは

明確にしてきているつもりはございます。

これはあくまでも施設の中身というふうなところかとは思いますが、（５３：５９）
議員からお話がありました通り、俗に言うそもそも論というところにつきましても文書において、これは４団体で明確に回答しているという風には我々として考えています。
その回答で市民の方々が十分に理解できるかどうかというところが、一番大きな問題になっているというふうには考えております。（５４：２３）

床鍋：理解をしてるかしてないかとわたしも傍聴して理解が出来ないことが多いですね。たとえば民間とのコストの比較に関しては協議会でも何度も質問があったにも関わらず未だに示されていないじゃないですか。それに関して議会で見もう何年も前になりますがコスト問題を取り上げてコストを示さないとなら判断できない訳だから示してくださいってことに関して、適切な時期にコスト比較を行うとか示していくという話であったけれどもこれまで建設コストは最近やっと出てきましたけれども維持管理コストとの民間の比較に関しては未だに出てきておりません。これは協議会においていつ示されるのでしょうか。（５５：１４）

田口：先の小平大和村山生成組合の定例会におきまして組合からこの部分委つきまして答弁がされております。施設の建設につきましては３市共同資源物処理施設整備実施計画案において約１９億円と記載しております。また組織しにおいて資源化の対応が違っていることから、同一条件で比較することは難しいとされてお ります。

運営費につきましては実施計画の中で資産をしたところのおおむね約２億円から２億４０００万円と見込んでいるというふうには答弁されております。
また小平市では公設で処理し、東大和市ではペットボトルは公設、容器包装リサイクル・失礼しました、容リプラですね、につきましては委託で処理している。武蔵村山市では委託で処理をしているということで３市の運営費と委託費の合計を組合で資産をしたところ約２億３００万円と見込んでいるというふうな答弁をされております。まああの（５６：３９）特に現状小平市ではすべて公設で処理していると、これを民間でいうことになる但实际上にそれを処理しておりませんので現状の状況からこのような答弁になったと理解しています。（５６：５６）

床鍋：ある程度数字は出ている訳なんであとは、簡単じゃないですか、小平のものを民間に出した時の試算をこれに単純に追加すれば、民間との比較ができると思うんですよね。それをこうを出してきてはたしてどちらがコストがかからないのか、維持費でさえ今現在、２億４千万、新しく建てる２億４千万、で現状民間は東大和市、武蔵村山市は民間、小平は自分のところでやってるってことに２億４千万今現在でもコストに関しては民間の方が安い訳ですよ。

で、プラスそれに建設費を１９億、２０億近くですよねかかってくるわけですよ。
これ補助金も出るでしょうけれども、ほとんど（負債？）で行われる訳ですよ。将来、我々市民、皆

さんも そうですけれども市民が負担しなければいけないものです。

それらのものに関してやはりごみ処理だけでなくですね、24日に行われた市長の施政方針演説の中でも今後社会保障費関係の増加や公共施設の老朽化対策などにより多額な財政負担が見込まれるというふうに発言されております。

あらゆる施策でこれからはほんときめ細やか費用対効果を考えるということは行政の義務というふうに思います（58：28）

で、これに関してあの、我々はそういったことを基準に予算とかことに賛成反対をしていかなければいけないと思うんですね。かなり金額が大きい事ですから通常のところとはやっぱり、あの違うわけですよ。

市民の負担 が大きくなる 。で、そのあとには焼却炉の更新も含まれているわけですよ。200億近くかかるって思いますけれどもそういったことも考えるとやはり費用対効果っていうものはコスト比較は非常に重要なところだと思うんですよ。それを早めに出していかなければいけなかったんじゃないですか。それを、だから、今ここまでわかってるんですから、今の試算を出して協議会の方で示していくって、住民の方にそれでもやることによって何かメリットがあるのかとかということを示していく、そういうことを隠さないで、隠しているわけじゃないんですけれども出すのが非常に遅いわけですから、先にこういったものを出していけばこんなに回数を重ねなくても済んだんじゃないかって思うわけです。そのあたりはいかがでしょうか（59：34）

田口：先ほど3市に状況のコスト比較につきまして組合で答弁された内容を流用させていただいております。当市におきまして逆にこれを置き換えたところ、おおむね試算をさせていただきます。

現在ですね、組合が示しております3市共同資源物処理施設の実施計画案の中で、工事価格が約18億7千920万円とこの辺の財源手当としまして国からの交付金が約5億5千116万円、（負債？記載？）が19億2千970万円となっております。維持管理費につきましては先ほどお話しをさせていただきました通り年間約2億円から2億4千万円というふうに組合の方からご回答されております。まあ、この内容を元に現在の小平村山東大和衛生組合の負担割合を当てはめまして試算をいたしますと、年間約7200万から8200万円程度になると見込んでおります。

で、当市の状況でございます。平成26年度の決算数値から容器包装プラスチックの委託料、および桜ヶ丘にあります暫定リサイクル施設で処理を行っておりますペットボトル、これペットボトルだけになります。えーにつきまして、消耗品や光熱費など細かいところは含んでおりませんが、2品目処理の経費の合計が約6700万程度と（1：01：17）というふうに試算をしております。

えーまあ、この辺の状況から見ますと約7.5%から22%増。になるかなというふうにはなるかなと見込んでおります。まあ新たな施設におきましては様々な環境対策をほどこした最新の施設であるというふうに考えておりますから現在の施設に比べると一定の負担増は必要なものかなと思っております。

当市においてはこのようにおおむねの試算はしておりますが、小平市、武蔵村山市の状況となるとちょっと私どもはなんとも申し上げられませんが先ほどお話しをさせていただきました組合の答弁ではあのような形の数字が出ているという状況でございます。

床鍋：今の数字は非常にわかりやすいです。で、こういうデータが来ると次にじゃあ、こういうことはと建設的な議論が出来ると思うんですよね。これをやっぱり4団体で構成している訳ですから東大和市だけではなく4団体がきちりとこれを示していく、それで、先ほど、部長がおっしゃったように7.5%から20%ですかね、あの、コストが上がるかもしれないけれどもこういう施設が建つんだから合理的な理由があるって事に議論を進めていけばいい話なのでそれを今までやってこなかった訳ですよ。それをわたしは今後協議会においてそういった建設的な議論が出来るためにそういった情報を早めに出していくということが必要だというようなふうにおもっておりますので、そのあたりはよろしく願いいたします。

で、前回の協議会で（1：03：08）ちょっと気になったのが次回の協議会3月12日ですよ。その協議会で施設の根幹に関わる質疑を打ち切る、締め切るという話が出ていたんですけど、実際にその通りなんでしょうか。

田口：2月の協議会の中で現在組合が作成しております3市共同資源物処理施設の実施計画案にもあります通り、スケジュールの中では3月のところが根幹部分でのタイムリミットがそこへ来るかなというふうにあります。まあ、その後衛生組合のほうでは契約に向けての様々な作業が入ってきますのでそういったところの中で市民の皆様のご意見を承れる部分は残ってるというふうなお話はされていると理解しています。（1：04：11）

床鍋：ではまだ議論の余地はあるってことでよろしいんですね。

田口：まああの根幹が部分がどこまでの範囲かというのがなかなか難しいところではございますけれどもやはりあの施設の今回の3市共同資源物処理施設の実施計画これの中の根幹の部分と言われているべき、えーものに関しましても、あの、メーカーからの提案が大きく関わって来る部分もございます。特に施設の高さとかそういったところも含めてですね
極力組合としては高さについては低くしたいと言うようなところを考えておりますし、我々としてもそれは望んでいるところでございます。しかしながら、適切な処理が出来ないことにはそこには大きな問題が生じてきますのでご意見として聞けるものは聞いていきたいというふうなスタンスでいることは間違いのないというふうを考えております。

床鍋：ではですね、質問を変えていきます。今回建設する施設と同様の施設を視察して建設の参考にするっていうことでした。それに関して寝屋川に行くって事が決まっています。でこれ、予定としては3月下旬と聞いております。

で、3月、もともとこの今回建てる施設と同様の施設を見たいっていうのは参加住民の方の希望ですよ

ね。それによって住宅密集地同じような、桜ヶ丘と同じような状況の中で同様の同規模の建物が建つてるところはどういうふうになっているのか、周りの環境も含めて見て見たいということが始まりだったと思います。

で、今回行く寝屋川に関してあの施設協議会の中では、まあ、処理する品目とかそういったことを鑑みると一緒だといったことですがけれども住宅密集地に建てられているかとは別だと思えますけれども。一つ聞きたいのは3月下旬に行ってその意見を反映させる、先ほど議論の余地があるんですねと言ったことはこれにつながるんですけれども、それを見てきたうえで議論の余地がなければまったくこう3月下旬に視察に行くのってかなり無駄じゃないですか。

そういう点では実際にそこに見に行つたけれどもやっぱりこれってこういったところがおかしいよねと、それがさきほど根幹って難しいって言いましたけれども、4団体の考える根幹に関わることであればいくら視察の結果としても受け入れないということですか。（1：07：06）

松本：えー、3月下旬に予定しております視察であります、当初昨年委実施したかったというのが正直なところであります。

ただまあ、予算等の関係もありまして一番早くて12月の実施だというところがございましてその後地域委員の方の日程等の関係もございまして、最終的な調整の元3月下旬という形に今現在なっております。

ここです、実施計画の案を取るという形で計画の方がまとめていく形になるわけですが実施計画が出来た段階でメーカー提案を求めていくというところに次の段階のステップとしてうつります。

ただあの今後発注（支援）の関係で具体的には発注仕様書、ま、こちらのほうは、これから作成という段階になっておりますので大枠のところのメーカー提案を受けると言うことに関してはここでいう形になる訳ですがまあ、次年度に向けては具体的な仕様書という形の中でこれは地域住民と協議を行っていくという予定にございます。

床鍋：発注仕様書ってのはいつまとめられる、今の予定でいいですけれども。いつ頃になりますか。

松本：はい、今現在は小平村山衛生組合のほうで契約の方はされているというふう聞いておりますが具体的に次年度のいつのタイミングまでというかたちのスケジュールはこちらの手元にはまだ来てないというところではございますが具体的な（要所？）につきましてはやはりあの施設の具体的にどういった形でやっていくという中で、具体的な選別作業員も今は計画の中では何名から何名という幅をもった形になっておりますので具体的な機器等の選定こちらのほう計画が固まった中でメーカー提案を頂いてそことのすりあわせの中で地域住民の方と仕様書で反映できるものについては反映させていくべきだと考えておりますので次年度以降という形の中でふおこは進めたいと思っております。

床鍋：っていうことは地域住民の方とそういったことを詰めていくところだと発注仕様書に関しては、ま、これから作るっていうことでしょうか、あのその情報っていうものが適切な時期に適切な情報量がこう協議会の中で家事されるといったところでよろしいですか。

松本：はい、議員のおっしゃるとおり適宜、適切な時期に情報を出していく、ま、おっしゃるとおりでございますのでそのようにつとめていくのと合わせてですね、事業スケジュールの計画でいきますとあくまでも発注仕様書については今年の夏ぐらいという形の中で予定をされています。

床鍋：また細かいことで申し訳ないんですけども、夏ぐらいに仕上げるといことなんですか、それとも夏ぐらいに話し合って何回か話し合ってと言うことであればもう今から発注仕様書に関して話し合いがはじまらなければいけないのかなって思うんですけど、いかがでしょう。

松本：はい、現段階では予定で・・は・・なりますが9月まで作成を仕上げるとい形を予定しております。

床鍋：わかりました、ではあの（話を）変えていきます、先ほどの質問にもどります。

今回協議会の中で桜ヶ丘のような住宅密集地で同様の施設がどこにあるんだって事でそれで選んだところが大阪ってことだった訳じゃないですか、（1：11：35）

最初の話だと関東圏にいくつもあるよみたいな話だったんですけどそれが結局大阪になったといことはやっぱり関東圏の範囲内では住宅密集地では新たにこうやって造られる廃プラ処理施設ってのはなかったという認識でよろしいですか。

松本：はい、今の点でございますが廃棄物処理施設につきましては住宅が近接してるところに設置されている例はある訳ですが、今回私どもが計画をしております2品目、ペットボトルとプラスチックの2品目にかぎっての廃棄物処理施設でかつ住宅が近傍ある、そういった施設がないというそういった形になっておりまして視察につきましても少し遅れたということでございます。

床鍋：そういうところが初めて行われるとこだというところが住民の方が非常に不安に思っているところだといふうに思っております。そういった方達が参加しているそういう協議会だつてことを念頭に置いてですね、情報開示だのきちりとしていただきたい、質問に対してちゃんと答えるつてことをやっていただきたいなと思っております。で、今お話がありました焼却施設であれば住宅密集地にあるという話でしたよね。

で、それ前も協議会で出た話で、たしか国分寺の清掃センターがあげられてました。で、確かに国分寺の清掃センターって住宅の、まわり住宅に囲われています。あーそのようだなと私も見て思ったんですけども、いろいろ調べて見ると国分寺市環境部生活環境課の職員だった方がですね、次のように述べられてまして。

”国分寺市清掃センターの焼却炉が立ったのは昭和60年ですその頃センターの周辺は森で民家は全くありませんでした、ダイオキシンのダの字もまだ知られてない時代で、だんだん回りに家が建ちはじめすぐそばまで住宅の方から近づいてしまいました。こんな民家が接近している焼却炉も珍しいですね”つておっしゃってました。

現在は結果的に確かに住宅地の中にあるというだけで、住宅密集地に建設する場合といのは全く別ですよ。

で、今度建てるものはあの関東圏にならなくて先ほど話したじゃないですか、なおかつ住宅密集地にだっ
たらば今の状態である、焼却炉ならあるって言ったけど、その焼却炉でさえ建てた時 は回りに民家
なかったんですよ。

ですから、周りに民家がある今回のように住宅密集地新たに建設するということの難しさを象徴してい
るということじゃないですか。であるからこそ周辺住民の方が反対しているということをやはり分か
って欲しいと思うんです。

で、もしね、今後協議会を進めて行く時にすごくこうスケジュールがあるから、で、時間がないと言
うんですけど、これも何度もこの場で言ってますけれども、それは周辺住民の人たちのせいでは全くな
いですよ、これはやっぱり更新時期を見据えてしっかりと計画をしてやってこなかった行政の責任が大
きい訳ですよ。

それを住民の方に押しつけるのはやめていただきたいと思いま す。前回の協議会のところでも何度も
話しましたがけれども4団体に中からこれごみ処理が出来なかったらどうなるんですか、みたいなことを
半ば切れぎみに言っていた方がいらっしやいました。で、結局、この施設が造られないと、廃プラ施設
が造られないとごみ処理全体が止まるどうすんですかみたいなことをいう訳ですよ、それを言うことで
この協議会の人たちの理解が深まると思えますか。

松本： えー、スケジュール調節に時間がないということは言葉に出したことはありますが、それはですね
えーある意味ご理解を頂きたいという意味合いの元で使った言葉でございますので地域住民の方々

に時間がないので

我慢をしろというふうに私どもが使った記憶はないと言うところでございます。

それと後ですね、えー廃棄物処理を安定的に処理していくってところから考えますとやはりですね、

安定した形で実施していく為にはやはり焼却量をより減らしていくということも今後の課題の中で
ございます。そういったことからそこについても丁寧に説明をしていくことをモットーにしなければい
けない訳ですね、でないとな今のご質問のよう に私どもはそういう意味合いで使った訳ではないんです
が、そういうふうに取りられかねないよということのお言葉かなと思っております。今後につきましても
丁寧に対応して参りたいと考えております。

床鍋： あの、周辺住民の理解を進めるという意味ではそういう言葉遣いひとつでも結構気を遣わなければいけ
ないところがあると思うんです。それで、今、課長がおっしゃったように一番大事なところって一番最
初一番はゴミ減量ですよ。

ごみの減量東大和は頑張っていると思うんですよ。東大和市も頑張ってるし市民も頑張っていると思う
んですよ。

ごみの減量のためにそれ相応の負担をしながらやっている。そういったことをまず前提になればこういった施設に関してははっきり言えば、他の2市はやってない訳ですよ。そこが先にリユース、3Rって言われてますよね。

その中で一番最初にやらなければいけないのはごみの減量じゃないですか。底の順番を間違えて先にリサイクルって事がおかしいよということを言ってる訳ですよ。それなのに理解されてると思うんですけども、そののこのところっていうのをきっちりやることによって、こう、整合性がとれてくる。やはりなにか先に建物をつくらなければいけない、造るって事が前提で話を持って行くのですごく順番がずれているんですね。

前も何回か話したんですけども、ボタンの掛け違いってことがあるのであればやはり原則に立ち返って本来あるべき姿に戻していく、これはまえに何度も述べてますけれども、まずごみ減量から始める、ごみ減量から始めて、じゃあ今の廃プラ施設どうするのか、今民間でやってることを活用しながら、リサイクルの状況を見ながら、リサイクルの状況っていろいろ変わってくる訳ですよ年度によって。

最近で行くと和歌山だったり、あの大津だったりするところがこれまでリサイクルだったのを今度燃やす、もちろん逆の場合もあります。で、そういうことでリサイクルとプラスチックの処理ってとても難しいと思うんですよ。

そういったことを、時代にすごく流される可能性のあるものを10年、30年、恒久化の施設を今造ってしまうと取り返しの付かないことになるんじゃないかなあってことを私は危惧しております。

で、現在、協議会の話に戻りますけれども、やはり参加住民の方はですね貴重な土曜日とか日曜日とかの時間、3時間、最近すごく伸びるんで3時間半くらい使って出席をされております。

それが1月は3回ありました。みなさん業務で来てるわけではなくですね、そういったマンションの管理組合だったり自治会だったり、マンションの管理組合だと自分のところの理事会も結構休みに行われたりするんで月に2回か3回はそれにとられてしまうんですよ。

そういったことを2年以上続けていくって事をしながら参加してるって事。で、東大和市民にとっては特に、繰り返し述べますけどごみ減量とかそういったことにきっちり対応しながらそういったところにも参加してるってことを考えるとやはり協議会で理解を得られていくそうところがやはり一番重要なところだと思うんですよ。

そこはしっかりと引き続き お願いをしたいなって思いまして次の質問にうつらせていただきます。